

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
63	2006/09/19	60453	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンアガー	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
64	2006/09/19	60454	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートインフュージョンブイオン	ウシ乳・心臓		製造工程	無	無	無			
65	2006/09/19	60455	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
66	2006/09/19	60456	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
67	2006/09/20	60459	フジモト・ダイアグノスティックス	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
68	2006/09/21	60460	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
69	2006/09/21	60461	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
70	2006/09/21	60462	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリプシン	ブタ膵臓		製造工程	無	無	無			
71	2006/09/21	60463	持田製薬	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
72	2006/09/21	60464	持田製薬	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ膵臓		製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
73	2006/09/21	60465	持田製薬	①日局硫酸フラジオマイシン、結晶トリプトブリン ②インターフェロン ベータ		ウシ臍臓	ニュージーランド	①有効成分 ②製造工程	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
74	2006/09/21	60466	持田製薬	インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることが科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
75	2006/09/21	60476	持田製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月~2003年9月、2005年1月~7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
76	2006/09/22	60467	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
77	2006/09/22	60468	ジェンザイム・ジャパン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
78	2006/09/22	60469	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、バルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカ等の生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー等の喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、HEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日の試行的HEV20プールの検査での陽性率は約1万分の1であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,1765531,00.html	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
79	2006/09/22	60470	日本製薬	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,1765531,00.html	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
80	2006/09/22	60471	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,1765531,00.html	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ
81	2006/09/22	60472	日本製薬	人血清アルブミン加熱人血漿たん白	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	60469に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	60469に同じ
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	60469に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	60469に同じ
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60469に同じ
82	2006/09/22	60473	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	デング熱	ProMED20060422-0090	ベネズエラで疫学週1週間のデング熱患者は722人で、うち42人(5.8%)がDHFであった。累計デング熱患者は11099人で、2005年同時期の患者数(8024人)と比較して28.9%上昇している。また、香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。
												ウイルス感染	CDR Weekly 2006; 16(21)	2006年5月15日現在、HPA Special Pathogens Reference Unitにより確定された2006年の英国におけるチクングンヤ症例は48例である。血清学的にチクングンヤと診断された症例数は、1999年から2004年は年に平均6例、2005年は19例であった。患者の大多数はアジアかアフリカへの旅行歴があったが、2006年の患者のうち5例は旅行歴がなかった。インド洋諸島でのアウトブレイクは減少傾向であるが、非免疫旅行者にとって感染の危険はしばらく続くであろう。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ペスト	Weekly epidemiological record 2006; 81: 241-242	WHOは2006年6月13日までに100名の肺ペスト疑い患者がコンゴ共和国Oriental州Ituri地区で発生し、うち19名が死亡したという報告を受けた。現在のところ患者数は不明であるが腺ペスト患者の発生も報告されている。Ituri地区は世界中で最もペストが発生することで知られており、年間約1000例報告されている。
												HTLV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	2005年に英EnglandおよびWalesにおける新規HTLV診断は73例で、男性22例、女性51例であった。うち、63例がHTLV-1型、4例がHTLV-2型、1例が両方に感染していた。46例について詳細情報を収集した医師報告を受け取り、予想される感染経路として、3例(9%)が輸血であった。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	英国におけるHIVの四半期最新情報(2006年6月末までのデータ)。1982年にサーベイランスが始まって以来2006年6月末までにHIV診断数は80556例報告された。感染経路別、性別、診断年別のデータを示している。輸血または血液因子製剤による感染は2005年度は男性7例、女性9例、2006年度は6月末までに男性3例、女性2例である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20060801.2120	インドstate for health and family welfareの長官は、5つの州においてチクングンヤの高発生が報告されていると、発表した。Andhra Pradeshで66109例、Karnatakaで543286例、Maharashtraで202114例、Tamil Naduで41211例、Madhya Pradeshで43784例である。
												ウイルス感染	WHO EPR 2006年8月8日	トルコ保健省は、2006年1月1日～8月4日のクリミア-コンゴ出血熱確定症例は242例(致死率8.3%)であったことを報告した。2006年6月30日以降症例92例および死亡9例が新たに報告された。死亡例のうち1例は治療に当たっていた医療従事者であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
83	2006/09/22	60474	わかもと製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	灰白髄炎	MMWR Weekly 2006; 55: 458-462	2005年1月から2006年3月までの世界的な野生型ポリオウイルス伝播撲滅の進行状況について述べた。World Health Assemblyによりポリオ撲滅運動が開始された1988年にはポリオ土着国は125ヶ国であったが、2005年には4ヶ国(アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン)に減少した。以前ポリオが根絶していたアジア、アフリカの22ヶ国で2003年以降に再感染したが、2005年7月以降は8ヶ国のみとなった。インド、パキスタンでも2004年に比べほぼ半減し、根絶に近づいている。
												コレラ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 118-119	2006年1月28日から3月20日にスーダン南部全域で死亡例238例を含む急性水様性下痢患者8923例が報告された。最も患者数が多いJubaとYeiでは改善がみられているが、他の地域で稲葉型コレラと確定診断された症例もあり、アウトブレイクの監視が重要である。
												灰白髄炎	ProMED-mail20060621.1714	ナミビアでここ10年以上で初めてのポリオのアウトブレイクが発生した。1例目は2006年5月6日に発見され、確定された。2006年6月21日までに15例が死亡し、症例数は96例に急速に増加した。コンゴで2例、ニジェールで3例、野生型ポリオウイルスによるポリオの報告があり、輸入例であった。
												コレラ	ProMED-mail20060728.2086	アンゴラでコレラが15番目の州に拡大し、死亡者は2089例となり、症例数は5万例を超えたとWHOが2006年7月24日に発表した。2006年2月13日からの症例数である。
84	2006/09/22	60477	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
85	2006/09/22	60478	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/09/22	60479	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
87	2006/09/22	60480	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
88	2006/09/22	60481	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
89	2006/09/22	60482	北里研究所	①コレラワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③～⑤沈降破傷風トキソイド ⑥、⑦沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	①②③⑦中国、ポーランド ④⑤⑥中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
90	2006/09/22	60483	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
91	2006/09/22	60484	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイシンラクチオン酸塩	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
92	2006/09/22	60485	北里研究所	①乾燥弱毒生麻しんワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	①③ニュージーランド ②オーストラリア	製造工程	無	無	無			
93	2006/09/22	60486	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド	添加物	無	無	無			
94	2006/09/22	60487	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
95	2006/09/22	60488	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無			
96	2006/09/22	60489	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリブシ	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
97	2006/09/22	60490	北里研究所	①②インフルエンザHAワクチン ③インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	①②日本③不明	製造工程	無	無	無			
98	2006/09/22	60491	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	無	無	無			
99	2006/09/22	60492	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
100	2006/09/22	60493	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
101	2006/09/22	60494	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
102	2006/09/22	60495	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリポプロテイン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
103	2006/09/22	60496	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
104	2006/09/22	60497	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
105	2006/09/22	60498	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓、ヒトインスリン	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
106	2006/09/22	60499	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ膵臓、ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
107	2006/09/22	60500	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス膵臓細胞と骨髄腫細胞を融合した細胞にヒト遺伝子を導入した細胞株	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
108	2006/09/22	60501	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫		製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
109	2006/09/22	60502	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	凍結乾燥注射剤	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Br Med J 2006; 332: 1186-1188	60495に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60495に同じ
												BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	60495に同じ
110	2006/09/22	60525	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
111	2006/09/25	60436	メルク製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
112	2006/09/26	60457	光製薬	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060312.0783	中国農業局は、青海省でアジア1型口蹄疫が発生したと発表した。発生した農場のウシ19頭とブタ2頭が省獣医局により処分された。病気は2006年3月4日に報告され、口蹄疫と確定されたが、すぐに発生地域の消毒と隔離、ならびに感染するおそれのある全ての動物への接種が命令された。
												レンサ球菌感染	ProMED-mail20060411.1082	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。ブタ連鎖球菌(<i>Streptococcus suis</i>)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がよい。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(18) 2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省 Haiyan郡。疑い例34例、症例4例。
												口蹄疫	ProMED-mail20060501.1266	中国青海省でこの2ヶ月で2回目の口蹄疫のアウトブレイクが起こった。2006年4月26日、4頭の牝牛がアジア1型口蹄疫を発症し、確定された。アウトブレイクを封じ込めるための緊急手段がとられている。
												レンサ球菌感染	PLoS Med 2006; 3:e151	2005年7-8月に中国四川省で発生した <i>Streptococcus suis</i> serotype 2 (SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
												レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌は tuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、およびslyに対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
113	2006/09/26	60458	ZLBベリング	①人血清アルブミン ②人血液凝固第XIII因子 ③フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	①有効成分 ②、③添加物	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	海洋起源のVesivirus感染がヒトでどの程度広がっているかを調べた。供血基準をクリアした供血者群、ALT値が高いため供血不可であった供血者群、非A-G肝炎患者群、および輸血または透析に関連した肝炎患者群由来の血清をVesivirusに対する抗体ならびにゲノムについて検査した。Vesivirusビリオンに対する血清陽性は、各々、12%、21%、29%、47%であった。RT-PCRの結果、SMSV Vesivirusなどとの関連性が示された。感染がヒトに広くみられることが明らかになった。
114	2006/09/26	60506	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌荚膜ポリサッカライド	肺炎球菌荚膜	米国	有効成分	無	無	有			